

PRESS RELEASE

2009年4月22日

六本木ヒルズ「毛利庭園」にパブリックアートとして登場！

森 万里子 「プラントオパール」

～自然との共存をめざす未来型の文化・社会環境のシンボルとなることを願い～

2009年3月28日、六本木ヒルズ 毛利庭園内の芝生広場に、アーティスト森万里子によるパブリックアートが新たに誕生いたしました。

六本木ヒルズは、「文化都心」をコンセプトに、森美術館をはじめとした文化施設、敷地内の各所に20人以上の世界的アーティストやデザイナーによるパブリックアートやストリートスケープが点在し、オープン6年が経過した現在、アートとデザインの境界を越え、美しく、機能的な作品が、街の景観を形づくっており、多くの方に親しまれてきています。

今回新たに誕生したパブリックアートのテーマは、「自然との親和関係の再生/自然と人間の融和」。この作品はテーマにふさわしい場所として毛利庭園に設置しております。

毛利庭園は、長門長府藩毛利家の麻布日ヶ窪邸跡に、保全再生された回遊式の日本庭園で、土地の記憶を残し続ける場所でもあります。

是非、このパブリックアートをご覧ください。



森万里子「プラントオパール」2003年～2009年



展示場所



<アーティスト 作品のメッセージ>

プラントオパール / 森 万里子

プラントオパールとは、化石となった植物細胞の結晶をさす専門用語である。縄文土器にこの結晶（プラントオパール）が発見されたことから、すでに新石器時代から稲作が始まっていたのではないかという説が生まれた。原始時代の人々が自然と共存しながら暮らし、その関わりを能動的なものに変えていったと思われる。

人類は今や、最先端の科学技術を駆使し、自然を克服しているという幻想を抱いている。“プラントオパール”から始まったヒトは、いつのまにか社会の利便さのために自然支配の欲望へと走っていった。しかし、わたしたちはたんに自然の一部にすぎないという古代の意識を忘れていてあり、もう一度、“プラントオパール”を見つめ直し、自然との親和関係を“再生”する必要があるのではないかと考える。

作品プラントオパールは、四季の温度の変化に反応し、風や雨の自然現象と“対話”しながら、作品の色や模様が様々に変化するガラスの彫刻である。この作品は自然とリンクし、インタラクティブに呼吸しながら、“自然と人間の融和”を一瞬、一瞬、創りだしていく。

本作品が太古の人々の意識を現代人に甦らせ、自然との共存をめざす未来型の文化・社会環境のシンボルになればと願っている。

<アーティスト プロフィール>

森 万里子 （現代美術作家）

- 1967年 東京生まれ。
- 1992年 チェルシーカレッジ・オブ・アート・ロンドン卒業。
- 1993年 ホイットニー・ミュージアム・インディペンデント・スタディ・プログラム修了。
以来ニューヨーク在住。
- 1997年 ヴェネツィア・ビエンナーレ 優秀賞受賞
- 1999年 “Mariko Mori : Dream Temple” プラダ財団（ミラノ、イタリア）
- 2003年 個展：“WAVE UFO” プレゲンツ美術館（プレゲンツ、オーストリア）
巡回：パブリックアートファンド（ニューヨーク、アメリカ） * 2005年 巡回 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 2007年 個展：“Oneness” グローニンガー美術館（グローニング、オランダ）
巡回：アロス美術館（オーフス、デンマーク）
- 2008年 巡回：ピンチュックアートセンター（キエフ、ウクライナ）

[主な作品所蔵先]

グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）、ポンピドゥセンター（パリ）、シカゴ現代美術館、イスラエル美術館、ロサンゼルス州立美術館、プラダ財団、ピンチュックアートセンター、アロス美術館、ベネッセアートサイト直島

【本件に関するお問合せ】

森ビル株式会社

タウンマネジメント事業室 六本木ヒルズPR
担当：松島、秋田、山口
TEL:03-6406-6382 FAX:03-6406-6483

森美術館 広報部

担当：渡邊、田村

TEL:03-6406-6111 FAX:03-6406-9351

Email: pr@mori.art.museum



【参考資料】

<六本木ヒルズのパブリックアート・ストリートスケープ>

六本木ヒルズに設置されている数多くのアートやデザインは、街にカラフルな彩りを添え、文化都心の形成に積極的な役割を果たしています。

敷地の要所には森美術館初代館長デヴィッド・エリオットの監修による 4 つのパブリックアート作品が、テレビ朝日敷地内には建物の設計を担当した槇文彦氏が選定した 3 つの作品が設置されています。さらに、六本木けやき坂通りの歩道上では、内田繁氏と 10 人のデザイナーのコラボレーションから生み出された 11 個のデザインベンチとバス停による、世界初の大規模なストリートスケープ・プロジェクトを展開。2007 年には、六本木さくら坂の歩道に「子供と母のためのファニチャー」をテーマに 2 つのファニチャーが設置され、新しい憩いのスペースとして、また母と子が安心して遊べる新しい環境を提案しています。

<森万里子 関連情報>

森万里子は、近年の創作活動の集大成となる作品集“Mariko Mori Oneness”を 2007 年に出版。同書は、アーティストの作品コンセプトを重視した内容で、参照図版を多数掲載、森万里子作品のスケールの大きさを感じさせます。

そのデザインのユニークさは国際的にも高く評価され、ドイツのインターナショナル・ブックデザイン賞“Die schönsten deutschen Bücher 2007”、“Best Book design from all over the World International Competition 2008”の銅メダルを受賞しました。

今回、パブリックアート展示を記念して、六本木ヒルズ アート&デザインストアにて本作品集を販売いたします。

タイトル：“Mariko Mori Oneness”（出版元：HATJE CANTZ）

価格：13,702 円（税込）

問合せ：六本木ヒルズ アート&デザインストア（ウエストウオーク 3F）03-6406-6280